

令和 7 年度
木の国・山の国県民会議
各専門部会の取組状況

令和7年度専門部会の取組状況

部会名	森づくり部会	担	森林経営課
部会長	篠田 成郎	当	整備係
構成員 (所属名)	篠田 成郎 <部会長> (岐阜大学名誉教授) 長瀬 雅彦 <副部会長> (一般社団法人名古屋林業土木協会副会長) 伊藤 栄一 (NPO法人森のなりわい研究所代表理事) 加藤 恵子 (一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会会員) 島内 厚実 (岐阜森林管理署長) 高橋 知樹 (一般社団法人岐阜県森林施業協会副会長) 古川 昌樹 (一般社団法人岐阜県林業経営者協会会員) 山川 弘保 (林業家、郡上市長)		
今年度 計画	1 令和7年度検討事項 ・前年度提案「新共同・集約化森林」の推進に向けた具体的施策 <hr/> 2 検討事項の具体的取組 ・意見交換の実施		
実施 状況	3 取組状況 ■第1回 (令和7年9月29日 (月)) ○令和7年度の検討テーマについて意見交換 ※オンライン併用開催 ・前年度の森づくり部会の取組みを振り返るとともに、集約化に取り組む上での前提、集約化の実施主体、集約化後の森林利用等について意見交換を実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【主な意見】 ・実際に自分の山の境界を分かっている人を把握する必要がある。 ・集約化ができれば林業、森林関係のビジネスは自然と動いていくと思う。 </div> ■第2回 (令和7年11月14日 (金)) ○令和7年度の検討テーマについて意見交換 ※オンライン併用開催 ・集約化モデル事業や過去の森づくり部会でのゾーニングの検討内容を把握した上で、経営管理支援法人のあり方やゾーニングの精緻化等について意見交換を実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【主な意見】 ・経営管理支援法人は、公平に仕事を分配できるような組織が望ましい。 ・県のゾーニングは、木材生産を重視。地域に合った方針を定めることが大切。 </div> ■第3回 (令和8年2月3日 (火)) ○森づくり部会からの提言に関する意見交換等 ・第5期森林づくり基本計画 (たたき台) について意見聴取 ・前年度提案「新共同・集約化森林」の推進に向けた具体的施策として、経営管理支援法人のあり方等について意見交換を実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【主な意見】 ・全県をカバーする組織とすることで、各地域に特化した人や、様々な分野に詳しい人、いろいろな人を集めることができるのではないかと。 ・組織による支援について、潜在的なニーズはあると思うが、その掘り起こしが大事。 ・先に県で組織を作って動かすのは難しい。属地的に始めてみてはどうか。 </div>		
今後の 課題	4 取組結果 ※別添資料のとおり 5 今後の課題 ○提言内容を具体化するためのパイロットモデル事業の立ち上げ ○地域ニーズの掘り起こし		

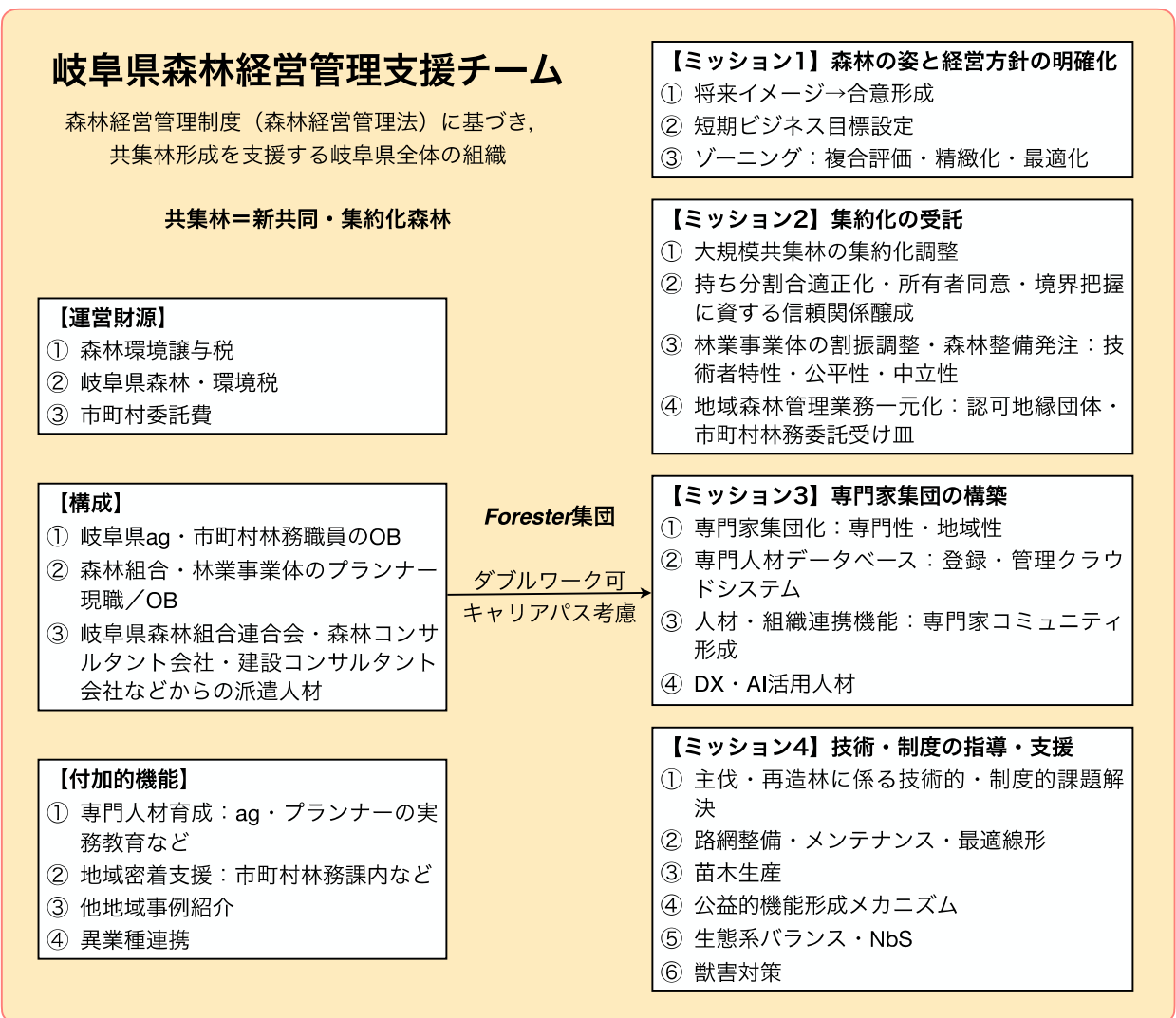
令和7年度森づくり部会提案

■ 提案の要点

- ◆ 岐阜県全域を対象とした森林経営管理支援チーム設置による地域（市町村）における共集林モデル事業の推進
- ◆ 地域の実情に合わせて取り組める専門家集団構築と体制づくり
- ◆ 市町村に派遣する専門家人材と地域の既存人材（地域森林管理士，地域林政アドバイザー，地域おこし協力隊など）との協働による共集林化支援
- ◆ 地域森林経営管理法人や協議会を作れない地域の支援を可能とする（専門家集団＝お手伝い集団）

■ 段階的取り組み案

- ◆ 共集林化の必要性を感じてはいるものの，実現できない地域（市町村）を対象としたパイロットモデル事業の立ち上げ
- ◆ 地域ニーズの掘り起こし
- ◆ 地域の森林専門家（地元からの信頼あり）＋営業のプロ（パートタイム移住者など）が一緒になって地元所有者に説明



令和7年度専門部会の取組状況

部会名	木づかい部会	担当	県産材流通課 木造建築推進室消費対策係
部長	中島由紀子		
構成員 (所属名)	中島 由紀子 <部会長> (NPO法人グッドライフ・サポートセンター理事長) 田口 房国 <副部会長> (株式会社山共 代表取締役社長) 新井 智真 (岐阜県生活学校連絡協議会 副会長) 石橋 明世 (ひだまりほーむ 株式会社鷺見製材 専務取締役) 岩井 香織 ((公社)岐阜県森林公社 森のジョブステーションぎふ 担い手支援員) 岡田 利里 ((公社)岐阜県建築士会女性委員会 委員長) 吉田 香央里 (ヤマガタヤ産業株式会社 取締役)		
今年度計画	1 R7年度検討事項 ・新たな県産材のPR方法について <hr/> 2 検討事項の具体的取組み ・県民向け及び建築士向けの県産材PR冊子作成		
実施状況	3 取組状況 ■第1回 (令和7年6月12日(木)) 岐阜県庁20階 2003会議室 ○岐阜県木の国・山の国県産材利用推進計画 令和6年度施策の実施状況(案)について ○今年度の取組み(冊子の作成)について 【主な意見】 <岐阜県木の国・山の国県産材利用推進計画 令和6年度施策の実施状況(案)について> ・令和7年度はさらに住宅着工戸数が下がると思われるので、次期計画策定時には、実態に合わせた目標値にする必要がある。 ・県立高校では県産材が使われているので、各市町村の教育委員会にも声を掛け、小中学校のフリースペース等に県産材を使ってもらえれば、さらに需要が広がるのではないかと。 <今年度の取組み(冊子の作成)について> ・県民向け冊子については、リノベーションを含む住宅購入者向けの内容が良い。 ・建築士向け冊子は、木造化、内装木質化した際の補助事業が調べやすいものが良い。		
	■第2回 (令和7年11月14日(金)) 岐阜県庁3階 304会議室 ○今年7年度「ぎふの木づかい施設認定」について ○県産材PR冊子の記載内容について 【主な意見】 <県産材PR冊子の記載内容について> ○県民向け冊子について ・県民が外材や他都道府県産材ではなく、県産材を使う重要性について書いた方が良い。 ・住宅施工事例には、流行りを意識した事例も掲載すると良い。 ○建築士向け冊子について ・事例写真に工法も書いた方が良い。 ・木材は、使用後も有効活用できるため、SDGSに貢献できることを表現できると良い。		
	■第3回 (令和8年2月19日(木)) 書面開催 ○県産材PR冊子案について ○第5期岐阜県森林づくり基本計画について ○令和8年度木づかい部会の取組方針について		

	<p>【主な意見】</p> <p>< 県産材 P R 冊子案について ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぎふの木製品カタログ」が閲覧できる QR コードを付けてはどうか。 <p>< 第 5 期岐阜県森林づくり基本計画について ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県ならではの特徴として「岐阜の匠の技」などの文言を入れられないか。 <p>< 令和 8 年度木づかい部会の取組方針について ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信をする際には、A I が探しやすい方法でインターネット上に掲載できると良い。 <p>4 取組結果</p> <p>< 県民向け及び建築士向けの県産材 P R 冊子作成 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人（県民及び建築士）に対し、県産材利用による環境保全や健康への効果などを啓発し、県産材の需要拡大を目指すため、県産材 P R 冊子の作成を県産材流通課と協働で行い、県民向け冊子、建築士向け冊子を完成させた。（印刷は R 8 年度を予定）。 <p>< その他 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産材を使用した 9 施設を「ぎふの木づかい施設」として認定した。
<p>今後の課題</p>	<p>5 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 9 年度からの次期県産材利用推進計画の内容を検討する必要がある。 ・今年度作成した県産材 P R 冊子の効果的な活用方法を検討する必要がある。

令和7年度専門部会の取組状況

部会名	普及・教育部会	担当	森林活用推進課 木育推進係
部会長	伊藤 栄一		
構成員 (所属名)	石橋 明世（ひだまりほーむ 株式会社鷺見製材 専務取締役） 伊藤 栄一（森のなりわい研究所 代表理事） 岡崎 佳代子（岐阜県小中学校女性校長会長） 加藤 恵子（（一財）岐阜県地域女性団体協議会 会員） 加藤 正吾（岐阜大学応用生物科学部 准教授） 田口 弥生子（公募委員） 中島 由紀子（NPO法人グッドライフ・サポートセンター 理事長） 古川 昌樹（（一社）岐阜県林業経営者協会 会員） 細川 正孝（加子母森林組合 代表理事組合長） 安田 裕樹（岐阜信用金庫 ソリューション営業課長） 山川 弘保（林業家、郡上市長）		
今年度計画	1 令和7年度検討事項 第1回「令和7年度の普及・教育部会の取組について」 第2回「令和8年度の普及・教育関係事業について」 第3回「令和7年度の普及・教育部会の取組状況について」 「令和8年度の普及・教育部会の取組について」		
	2 検討事項の具体的取組み ・ぎふ木育の全県展開に向けた取組みと、次の施策の方向性について意見をいただく。 ・ぎふ森のある暮らし推進協議会の森林サービス産業の取組みについて意見をいただく。		
実施状況	3 取組状況 ■第1回（令和7年6月3日（火）） 事例紹介：「林業ボードゲーム（FOREST BALANCE GAME）について」（飛騨五木株式会社） 議題：「令和7年度の森林活用推進課の主要事業等について」（森林活用推進課） 「令和7年度の普及・教育部会の取組みについて」（森林活用推進課） 【主な意見】 「令和7年度の森林活用推進課の主要事業等について」 ・緑と水の子ども会議の実施方法について、当年度に申込みできるような仕組みを検討するなど、実施方法を見直す時期に来ているのではないかと。 ・ぎふ木遊館サテライト施設が整備されているが、利用者となる子どもの保護者は自分たちが活動できる場所を求めており、環境を整備できれば、保護者が資格を取って活動してもらえないのではないかと。 ・そもそも子どもが林業という仕事を知らないケースがあり、中学生や高校生といった段階で、林業を知ってもらうことが重要であり、森林環境譲与税の一部を、そういった就労に充てることも必要なのではないかと。 ・林業を刷り込んでいくのは、ある意味「ぎふ木育」の役割である。		
	■第2回（令和7年11月13日（木）） 議題：「令和7年度の普及・教育の取組みについて」（森林活用推進課） 「令和8年度以降の普及・教育の取組みについて」（森林活用推進課） 「第5期森林づくり基本計画の策定に向けた現状と課題（たたき台）について」（森林活用推進課） 【主な意見】 「令和7年度の普及・教育の取組みについて」 ・ぎふ木遊館サテライト施設については、デザインも重要であるが、安全への配慮も重要である。 ・ぎふ木育コーディネーターは管轄エリアが広く、地域の特性を踏まえ、自由な活動をフォローする役割が重要である。		

「令和8年度以降の普及・教育の取組みについて」

- ・今の「ぎふ木育」は木のおもちゃに触れるということが中心になっているが、昔は木に山を植えるなど、生活が木育そのものであった。木の年輪はどのようにできるかや、ミネラルとは何かなど、幅広い教育が必要である。
- ・森林からのアプローチを進めることについて、まずは分かりやすいところから、森林全体へ広めていけるとよい。

「第5期岐阜県森林づくり基本計画の策定に向けた現状と課題（たたき台）について」

- ・いかに実行するかというロードマップが重要である。また学校、市町村との連携も必要である。
- ・「ぎふ木育」を公立青少年教育施設で実施していくアイデアは大変よいと考える。施設の森林を活用し、木育プログラムを実施して欲しい。
- ・G-クレジットについて、今後大手企業への営業や、市町村のふるさと納税を活用していくなどの検討が必要ではないか。
- ・「ぎふ木育」の施策については、都市部をマーケットとし、下流から上流へフィードバックできるとよい。

■第3回（令和8年2月5日（木））

議題：「普及・教育に関する取組みについて」（森林活用推進課）

「令和7年度の普及・教育部会の取組状況について」（森林活用推進課）

「令和8年度の普及・教育部会の取組について」（森林活用推進課）

【主な意見】

「普及・教育に関する取組みについて」

- ・緑と水の子ども会議について、学校側の希望をブラッシュアップし、使い勝手を良くしていくことが必要である。
- ・ぎふ木育指導者交流会について、今後のテーマとして、緑と水の子ども会議の学校提案事業を掘り起こすため、講師や学校の先生が交流できる機会を設けても良いと考える。
- ・「木育」についても、統一したロゴやシンボルマークがあると良いのではないか。
- ・高山市では、「飛騨の匠」や「飛騨の木工」がブランディングされており、全国から学生が集まると聞いている。「木育」についてもそういったブランディングが重要である。

実施状況

4 取組結果

- ・令和7年度及び令和8年度の普及・教育の取組への提案を行った。
- ・第5期岐阜県森林づくり基本計画策定への提案を行った。

今後の課題

5 今後の課題

- ・第5期岐阜県森林づくり基本計画を着実に実行するための指標の検討について